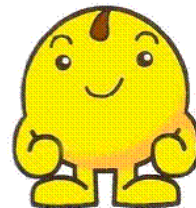


岩船大豆情報 No.2

平成27年6月1日
村上農業普及指導センター
J A に い が た 岩 船

好天に恵まれ、大豆の播種作業は順調に進んでいます。
高品質・安定生産に向け、中耕・培土や生育期除草剤の活用で雑草対策を十分行ってください。



1 現在の状況

今年の播種作業は5月25日頃から開始されました。
好天が続いたことにより、播種作業は順調に進んでいます。



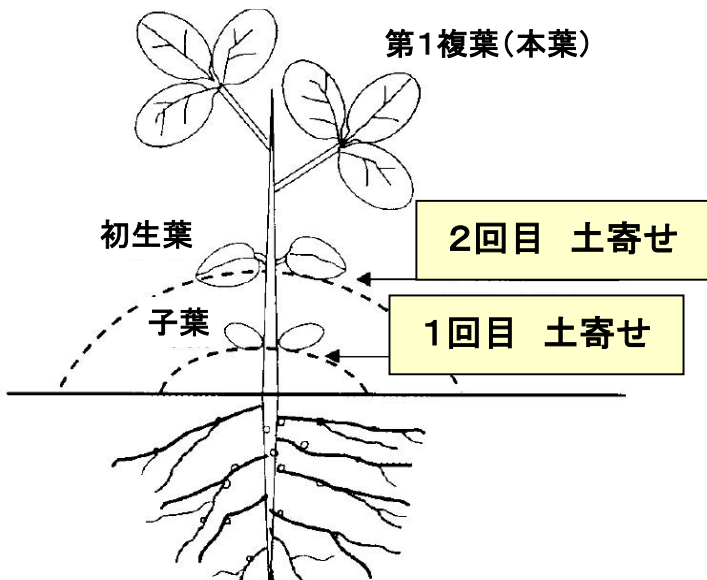
2 これからの管理のポイント

(1) 中耕・培土の目安

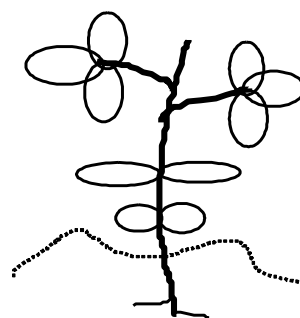
- 第1回目 → 播種後約3週間頃。第2複葉展開期頃に子葉節まで。
- 第2回目 → 1回目作業から2週間後に初生葉節まで。

2回目の培土は、開花期前(エンレイで7月20日頃)までに終わるようにしましょう。開花期以降は根の切断により生育へのダメージが大きく生育抑制や落花・落莢を招く恐れがあるので注意が必要です。また、畝立て播種を行っているほ場でも、中耕による除草効果が期待できるため可能な限り行いましょう。

第2複葉(本葉)



【土寄せが不十分な例】



株元に土が寄らず、隙間ができると



- ◆ 株間雑草の取りこぼし
- ◆ 排水対策不十分・湿害の恐れ
- ◆ 不定根の発生量減少

例年より雑草発生が早い・多い場合や、週間天気予報等で長期間降雨が予想される場合は、可能な限り中耕・培土を前倒して雑草対策を行ってください。

(2) 排水溝等の点検

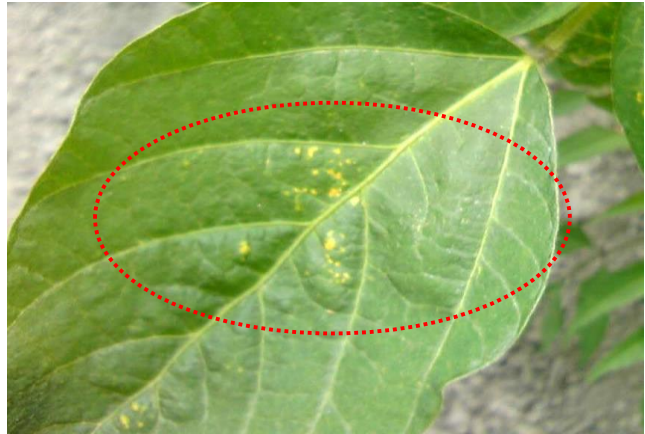
- 地表残留水は、1日以内に排水されることが理想です。事前に周囲明渠や排水溝等点検を行い、まとまった降雨があった場合は速やかに排水が行われるようにしましょう。

(3) 除草剤散布による雑草対策

- 大豆生育期の雑草対策は、「中耕・培土」の徹底が基本です。
- 茎葉処理除草剤は、中耕・培土で残った雑草対策の補助的手段として使用しましょう。
- ほ場に発生している草の種類(イネ科雑草、広葉雑草)に応じて最適な薬剤を選定し、遅れず散布しましょう。
- 除草剤を畦間に散布する場合は、飛散防止カバーを利用し大豆に付着しないよう注意しましょう。

(4) 害虫防除

- アブラムシ類
直接の吸汁害の他に、ウイルス病(褐斑粒)を媒介します。葉の黄色い斑点等発生動向に注意し、多発生の傾向がみられたら速やかに防除を実施してください。



【アブラムシに吸汁された痕の症状】

3 時期別生育量の目安

- 収量300kg/10aを目標とした時期別生育量のめやすは、標準は種(5月末～6月上旬)のエンレイの場合、は種50日後で主茎長32cm以上、分枝数9本/m²以上です(下図)。

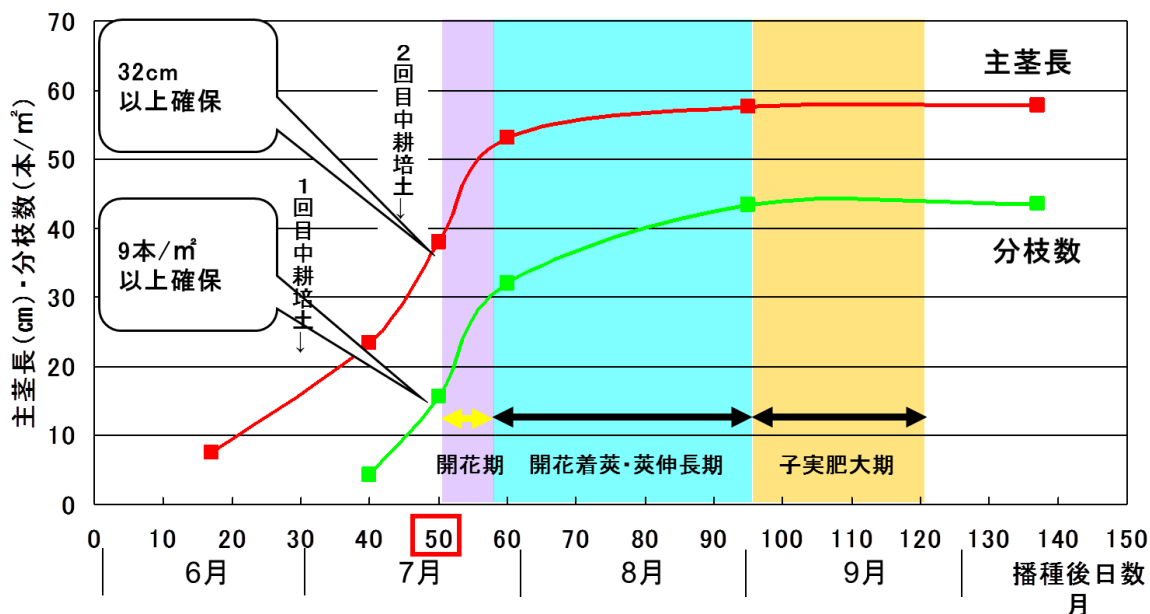


図 実収300kg/10aの多収事例に基づく主茎長と分枝数の生育指標

- 多収栽培を達成するためには、開花期前の生育量確保が重要です。



中耕培土、排水対策等を行う今が勝負の分かれ道です！